

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地				
専修学校 麻生ビューティーカレッジ	平成14年4月1日	林 宏治	〒810-0041 福岡県福岡市中央区大名2丁目9-23 (電話) 092-735-3800				
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地				
学校法人 麻生塾	昭和26年3月12日	麻生 健	〒820-0018 福岡県飯塚市芳雄町3-83 (電話) 0948-25-5999				
目的	本校は、美容技術に必要な知識技能を修得せしめ、社会に有為有能なる実践的人材を養成することを目的とする。						
分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士			
衛生	衛生専門	ビューティースペシャリスト科 (メイクアップコース)	平成22年2月26日 告示第30号	-			
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技
2年	昼間	1818	210	801	807		
生徒総定員	生徒実員	専任教員数	兼任教員数	総教員数			
80人	10人	4人	12人	16人			
学期制度	■1学期:4月1日～8月31日 ■2学期:9月1日～12月31日 ■3学期:1月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 試験、実習の成果、履修状況等を総合的に勘案して行う。			
長期休み	■夏季:8月1日～8月31日 ■冬季:12月19日～1月4日 ■春季:3月6日～4月3日		卒業・進級条件	・各学年における当該学科の指定科目をすべて履修・修得していること。 ・卒業基準検定を取得していること。 ・学年の出席率が90%以上であること。 ・学生としてふさわしい生活態度であること。			
生徒指導	■クラス担任制: 有 ■長期欠席者への指導等の対応 補講の実施、休学、留年		課外活動	■課外活動の種類 ■サークル活動: 無			
就職等の状況	■主な就職先、業界等 百貨店・美容品販売メーカー・エステサロン・ネイルサロン ■就職率 ^{※1} : 100% ■卒業者に占める就職者の割合 ^{※2} : 100% ■その他 (平成28年度卒業者に関する平成29年4月1日時点の情報)		主な資格・検定等	・JMAメイクアップ技術検定 ・shu uemuraメイクアップ検定 ・日本ネイリスト検定試験センター ネイリスト技能検定 ・日本ネイリスト協会ジェルネイル技能検定 ・日本エステティック協会認定 フェイシャルエステティシャン検定 ・JBCAビューティーコーディネーター検定 ・日本ファッションスタイリスト協会 スタイリングマップ検定			
中途退学の現状	■中途退学者 1名 平成28年4月1日時点において 在学者 9名 平成29年3月31日時点において 在学者 8名 ■中途退学の主な理由 進路変更(就職・転学・その他)、病気・ケガ、経済的理由、その他 ■中退防止のための取組 学生ガイダンス実施マニュアルを作成し細かな面談の実施		■中退率 11.1% (平成28年4月1日入学者を含む) (平成29年3月31日卒業者を含む)				
ホームページ	http://www.asojuku.ac.jp/abc/						

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

美容・メイク業界で即戦力として活躍できる美容部員としての基礎をしっかり学び、2年間でメイクの各種資格取得を目指し、実践力を身につける。また、トータルビューティーを推奨する美容業界の動向に合わせ、基礎実習はもとより、ネイル・エステの基本技術を修得することを基本に、適宜編成委員会を開催し授業内容等について確認を行い、カリキュラムに活かす。更に企業等が実習の授業を行なう機会を設け、教員に対し専攻分野における実務に関する研修を組織的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

専門性に関する動向や地域産業振興の方向性等について意見交換等を通じて、より実践的な職業教育の質を確保することを目的とした教育課程編成委員会を置く。教育課程編成委員会の意見は、校長代行が主宰する各学科のカリキュラム会議において、カリキュラムの改善(授業科目の新設、変更や、授業方法の改善・工夫)などに行ける限り反映する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成29年5月1日

名 前	所 属	任 期	種 別
永倉 瑞恵	一般社団法人JMA	H29/4/1～H31/3/31	①
松崎 成能	BOSCO	H29/4/1～H31/3/31	③
林 宏治	麻生ビューティーカレッジ 校長	H29/4/1～H31/3/31	
渡辺 博明	麻生ビューティーカレッジ 校長代行	H29/4/1～H31/3/31	
金川 盛一	麻生ビューティーカレッジ 教務部主任	H29/4/1～H31/3/31	
江藤 登志美	麻生ビューティーカレッジ 教務部 副主任	H29/4/1～H31/3/31	
中西 徳孝	麻生ビューティーカレッジ 事務長補佐	H29/4/1～H31/3/31	

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

第1回:前期 平成29年4月～平成29年8月に開催予定

第2回:後期 平成29年9月～平成30年3月に開催予定

(開催日時)

平成29年6月19日 13:30～15:30予定

第2回:後期 平成29年9月～平成30年3月に開催予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

(1)場数を踏む機会がビューティースペシャリスト科の業界が少ない、との指摘があり、平成29年度より、第三者に施術する機会を増やす計画。

(2)美容業界において、社員育成において、「目的」を共有することが大切であるとの指摘があった。平成29年度の本校の重点項目の中に、「目的、意味」を意識して運営することを入れた。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

企業と教育提携により現場で実践されている教育プログラムを授業に導入し、就職後に即戦力として活躍できるための現場に則した知識、技術を身に付けさせる。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

shu uemuraの開発したメイクアッププログラムを授業に導入し、検定試験を受験させるなど現場の知識や技術を在学時から身に付けさせている。

(3)具体的な連携の例

科 目 名	科 目 概 要	連 携 企 業 等
メイク実習	shu uemuraの商材とプログラムを使用し、メイクアップのベーシックな知識、技術から実践的な応用技術までを学ぶ	株式会社日本ロレアル ATELIER MADE by shu uemura

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

研修は、教職員に対して、現在就いている職又は将来就くことが予想される職に係る職務の遂行に必要な知識又は技能等を修得させ、その遂行に必要な教職員の能力及び資質等の向上を図ることを目的とする。教職員に対し、専攻分野における実務に関する研修や、指導力の修得・向上のための研修を、教職員の業務経験や能力、担当する授業科目や授業以外の担当業務に応じて実施し、受講者はその内容を他教員へ展開することで、全教員のより高度な職務を遂行するために必要な知識を付与することを目的とする。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

shu uemura schools認定講師研修(8/29重松、坂本)

② 指導力の修得・向上のための研修等

shu uemura schools認定講師研修(8/29重松、坂本)

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

shu uemura schools認定講師研修

② 指導力の修得・向上のための研修等

shu uemura schools認定講師研修

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

本校の基本方針に基づき、学校運営が適正に行われているかを企業関係者、保護者、地域住民、高校関係者等の参画を得て、包括的・客観的に判定することで、学校運営の課題・改善点・方策を見出し、学校として組織的・継続的な改善を図る。また、情報を公表することにより、開かれた学校づくりを行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	・建学の精神・法人の理念、学校の教育理念、学科の教育目的・育成人財像を明文化し、学校構成員で共有し、社会に公表しているか。
(2) 学校運営	・学校の管理・運営体制が確立して、規程通りに運営しているか。
(3) 教育活動	・各学科の教育目的、育成人材像に向けたカリキュラムの作成等の取り組みがされているか。 ・教授学習プロセスの改善及び教員の資質の維持や向上への取り組みをしているか。 ・業界ニーズに対応した付加的教育の取り組みをしているか。 ・教員の資質維持や向上にむけた取り組みをしているか。
(4) 学修成果	・各学科の教育目的に向けた達成度及び成果を評価・公表している
(5) 学生支援	・学生支援が整備され組織的に行われているか ・卒業生等に対する卒業後の支援はおこなわれているか。
(6) 教育環境	・教育の実施体制を整備しているか。 ・教育環境を整備・活用しているか。
(7) 学生の受入れ募集	・学生募集を適正に行い、入学選考を公正かつ適切に実施しているか。
(8) 財務	・学校の財務体質は健全であり、財務運営は適切に行っているか。
(9) 法令等の遵守	・各学科の教育目標、育成人材像に向けて自己点検・評価活動の実施体制が確立して改革・改善の為のシステムが構築されているか。
(10) 社会貢献・地域貢献	・意図的・計画的・組織的に社会活動への取組みが推進されているか。
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

教員の業務負担について、非常勤で対応するなど業務負荷の軽減やマンパワーの頼りすぎる危険性について指摘があった。それに基づき、平成29年度は適正な配分ができるよう、担当コマ数を組みなおした。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成29年5月1日

名前	所属	任期	種別
高木 由紀	株式会社 ダリア	H29/4/1~H31/3/31	企業等
藤野 善友	SOEN	H29/4/1~H31/3/31	卒業生
友岡 貴昭	ビューティースペシャリスト科1年在校生保護	H29/4/1~H31/3/31	保護者
永末 里志	博多女子高等学校	H29/4/1~H31/3/31	高等学校関係者
山本 信彦	大名2丁目3区町内会	H29/4/1~H31/3/31	町内会長

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生、校長等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

公表方法: URL: <http://www.asojuku.ac.jp/disclosure/>

公表時期: 8月

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

本校の教育方針・カリキュラム・就職状況など学校運営に関して、企業等や高校関係者・保護者などに広く情報を提供することで、学校運営の透明性を図るとともに、本校に対する理解を深めて頂く事を目的とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	学校概要、校訓、沿革、所在地、連絡先、魅力、麻生塾の取組み
(2) 各学科等の教育	定員、カリキュラム、時間割、取得可能な資格、国家試験、内定実績
(3) 教職員	教員一覧
(4) キャリア教育・実践的職業教育	就職進学サポート
(5) 様々な教育活動・教育環境	年間行事
(6) 学生の生活支援	学生寮、国際交流センター
(7) 学生納付金・修学支援	募集要項、日本学生支援機構奨学金制度、授業料減免制度
(8) 学校の財務	財務情報
(9) 学校評価	自己点検・評価報告書、学校関係者評価委員会報告書
(10) 国際連携の状況	海外教育機関との連携
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

URL: 学校法人麻生塾HP <http://www.asojuku.ac.jp/>

専修学校麻生ビューティーカレッジHP <http://www.asojuku.ac.jp/abc/>

授業科目等の概要

(衛生専門課程美容学科) 平成29年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			メイク理論	1 化粧品の定義について 2 皮膚理論全般 3 皮膚の構造 4 真皮、表皮 5 日焼けのメカニズム 6 トラブルスキン 7 人相学	1年 2年 ・ 通年	60		○			○		○		
○			エステ理論	1 解剖生理学 2 化粧品学 3 カウンセリング	1年 ・ 通	30		○			○		○		
○			ネイル理論	1 爪の歴史、病気、名称 2 爪の化粧品学 3 消毒法、衛生管理、 カウンセリング	1年 ・ 1,2学 2年 ・ 1学	45		○			○		○		
○			販売実務	1 小売業の種類、 マーチャンダイジング 2 ストアオペレーション 3 マーケティング、販売経営管理	1年 ・ 通	45			○		○			○	
○			栄養学	1 現代の食の問題 2 糖質 3 脂質 4 タンパク質 5 ビタミン、ミネラル 6 食物繊維、フィトケミカル 7 栄養価計算	1年 ・ 1,2学 2年 ・ 1学	45		○			○			○	
○			メイク実習	1 メイク理論及びスキンケア実習 2 ベースメイク実習 3 アイメイク実習 4 リップカラー、チークカラー実習 5 骨格修正メイク	1年 2年 ・ 通	390					○	○		○	
○			ボディジュエル	1 グラデーションアート 2 ブライダルアート	2年 ・ 2,3学	30					○	○			○
○			フォトシューティング	1 作品制作 2 作品撮影	2年 ・ 2学	30					○	○			○
○			サロン実習	1 運営企画 2 広告、営業 3 店舗運営	1年,2年 ・ 通	300			○		○			○	
○			ネイル実習	1 ネイル理論 2 ネイルケア 3 ネイルカラー 4 ネイルアート	1年 ・ 通 2年 ・ 1,2学	105					○	○		○	○
○			エステ実習	1 エステティック理論 2 スキンケア実習 3 フェイシャルエステ実習 4 ヘッドマッサージ実習	1年 ・ 1学 2年 ・ 1,2学	120					○	○		○	
○			着付け	1 小物の名称、準備、着物の歴史 2 自分に着付ける 3 人に着付ける	1年,2年 ・ 1学	36					○	○			○
○			ヘアアレンジ	1 ゴムの結び方、土台、面の作り方 2 編み込み（表編み、裏編み、片編み） 3 アイロン、ホットカーラーの使い方 4 逆毛、ピンニング、シニヨン 5 夜会巻き	1年 ・ 1,2学 2年 ・ 1,2学	36					○	○		○	

○		カラーコーディネイト	1 色とトレンド 2 パーソナルカラー 3 色の分類、色相、明度、彩度 4 色の心理効果 5 配色、色とバランス	1年、2年 通	75								○	○			○
○		ファッションコーディネイト	1 デザイン造形のセオリー 2 カラーコーディネイト 3 ファッションイメージの分類 4 ファブリック 5 ファッショントレンド	1年、2年 1学、2学	60								○	○			○
○		ビューティーコーディネイト	1 B C の役割 2 フロアマネジメント 3 美容知識	1年、2年 1学、2学	60									○	○		○
○		スタイリングマップ	1 色と形と素材の関係 2 個性分析	2年 1学、2学	30								○	○			○
○		デッサン	1 鉛筆描画 2 自画像制作 3 ライフマスク制作 4 色彩学、スタイル画制作	1年 2学、3学 2年 通	111								○	○			○
○		接遇	1 言葉遣い（敬語の使い方） 2 社会人としてのマナー（立居振舞い） 3 接客用語 4 顧客心理 5 電話対応 6 ビジネス文書	1年 1学、2学 2年 通	45								○	○			○
○		教養基礎	1 国語（漢字、四文字熟語、文学史） 2 数学（消費税、損益算、鶴亀算） 3 時事（国際、地理、法律、経済）	1年 2学、3学	30								○		○		○
○		就職実務	1 就職までの流れに関する講義 2 就職活動時の注意点に関する講義 3 履歴書及び面接対策に関する演習	1年 通 2年 1、2学	60								○	○			○
○		グローバルシチズンベーシック	1 感謝心と思いやり 2 志を立てる	1年 1学 2年 1学	30								○	○			○
○		総合学習	1 企業セミナーの受講 2 福祉ボランティアへの参加 3 社会貢献事業への参加	1年 2年 通	45								○	○			○
合計			23科目			1818単位時間（ 単位）											

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
<ul style="list-style-type: none"> ・各学年における該当学科の指定課目をすべて履修・修得していること。 ・卒業基準検定を取得していること。 ・学年の出席率が90%以上であること。 ・学生としてふさわしい生活態度であること。 		1 学年の学期区分	3期
		1 学期の授業期間	14週

（留意事項）

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3（3）の要件に該当する授業科目について○を付すこと。